

Max Classroom.net

入試問題アプローチ 2018

慶応義塾大学 法学部入試

A 入試概況 (1 ページ目は全学部共通)

大学全体の3年間の受験者数、合格者数、倍率の変化<一般方式、センター試験利用方式>

2018年度			2017年度			2016年度		
受験者数	合格者数	倍率	受験者数	合格者数	倍率	受験者数	合格者数	倍率
39,959	8,817	4.5	41,398	8,978	4.6	41,251	9,252	4.5

もともと大きく定員を上回っていなかった慶應は合格者の絞り込みも緩やかであり、2016年度から2018年度の間は95%にしか落ちておらず、2018年度/2017年度の差で見ると98%でほぼ平年並みと言える。一方、安全志向の影響で受験者が減り、倍率は大きく変わらない(2018年度/2017年度ではむしろ倍率は緩和されている。とは言っても、私立最難関の慶應であり、小論文という壁もあり、国公立との併願も多いことから厳しい入試であることは変わらない。

入試が多様化する中で、慶應は依然としてこれまでのスタンスを貫き、AO・推薦試験のほかは、個別日程1本勝負である。経済部、商学部は以下のようにA・Bの②方式があるが、両方式は併願ができず、科目の選択肢が与えられているというだけで1本勝負ということには変わらない。2021年度の入試改革についても、そもそも小論文で思考力を評価しているという自負もあり、「現状のまま変更なし」と回答している。入試改革の先頭を切る早稲田大学とは対照的と言える。

複数の方式がある学部

学部	方式		募集	'18倍率
経済学部	A方式	外国語、数、小論文	420	4.2
経済学部	B方式	外国語、地歴歴史、小論文	210	5.1
商学部	A方式	外国語、地理歴史、数学	480	3.0
商学部	B方式	外国語、地理歴史、論文テスト(論理的理解力と表現力)	120	9.1

2次試験のある学部

医	小論文、面接
看護医療	面接

学部間併願状況（慶応義塾大学 HP より）

文														
122	経 A													
822	-	経 B												
506	166	495	法律											
684	114	506	-	政治										
244	1774	314	208	176	商 A									
993	15	1102	431	498	-	商 B								
1	81	0	1	0	3	0	医							
2	712	0	2	0	54	0	184	理工						
734	670	499	296	296	292	585	10	91	総合					
563	525	310	172	175	176	394	7	196	2283	環境				
1	34	1	1	0	7	1	7	4	25	35	看護			
0	108	0	1	0	10	1	67	261	28	35	36	薬		
0	52	0	0	0	7	0	13	221	8	15	11	-	薬科	

2018 年度入試 方式別の募集人数と倍率

	募集	受験者	合格者	倍率			合格者平均偏差値		
				'18年	'17年	'16年	'18年	'17年	'16年
文	580	4,500	1,023	4.4	4.2	4.1	73.4	75.7	74.2
法	460	3,370	666	5.1	5.2	5.3	77.0	78.9	78.4
総合政策	275	3,423	351	9.8	9.4	7.0	69.8	71.1	70.1
経済	630	6,531	1470	4.4	4.5	4.5	76.4	75.8	76.1
商	600	6,547	1,558	4.2	4.2	3.9	75.2	76.4	76.3
理工	650	8,569	2,532	3.4	3.6	3.6	74.7	74.8	73.8
環境情報	275	2,866	333	8.6	8.4	6.5	65.7	66.1	65.0
医	68	1,327	180	7.4	7.7	8.6	81.8	81.8	79.5
薬	150	2,189	548	4.0	4.3	4.4	72.8	71.5	72.3
看護医療	70	637	156	4.1	3.9	4.0	64.7	65.9	65.1

* 合格者平均偏差値は記述模試集計

過去3年間 方式別の受験者数、合格者数、倍率

		2018 年度入試			2017 年度入試			2016 年度入試		
		受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率
法	法律	1,864	351	5.3	1,931	352	5.5	1,796	338	5.3
	政治	1,506	315	4.8	1,563	324	4.8	1,654	313	5.3

特に政治学科で受験者の落ち込みが見られ、倍率は緩和されている。合格者の平均 SS（記述偏差値）は 77 と非常に高いが倍率とともにやや下降している。

B 英語試験の概況

設問も選択肢もすべて英語ということにも象徴されるが、ネイティブに似た感覚で英語を英語のまま理解する力が求められており、本質的な英語読解力が求められている。帰国子女のような生徒にはむしろ解きやすい問題だろうし、大問4にあるような難しい語を文脈の中で判断させ、英英辞書的な定義と一致させるような問題は、まさに「ネイティブに近い感覚」を求めているというメッセージでもある。一方で、受験英語的な勉強に偏っていて、分析的にしか読解できない受験生にとっては厳しい問題であろうし、そもそも英語の量にうんざりしてしまうだろう（とは言っても、このレベルになると相も変わらず受験英語主義で育った生徒も山ほどいるが）。その点も含めて、問題の雰囲気や求めている力は慶應の経済学部、早稲田の法学部、国際教養に似ている。出題のレベルは高いものの、奇問という類のものは少なく、確固たる英語力と感覚を持っていればストレートに答えが出せる問題が多い。あとは80分という時間との勝負が重要になる。英語を英語で読むことに慣れている受験生はむしろ時間に問題

テストは5つの大問で構成されている。2016年度までは大問が4つであったが、2017年度から大問が5つになった。増えたのは発音、アクセントの問題であり、センターレベル～やや難といったものなので、時間的にもレベル的にも大勢に影響はない。そのほか、細かい形式を言えば変更が見られるが、これもマイナーチェンジに類するものである。

テストの構成以外の点で、明らかに2018年度の問題は2017年度までのものより難易度が上がった。最後の長文が4択から5択になったことだ。これにより選択肢で目を通す語数も増えたとし、もちろん正解がさらに絞りづらくなった。

対策としては、できれば英字新聞などにあたるのがよいが、併願校になりうるであろう慶應・経済、早稲田・法、政経、国際教養の問題と並行しながら過去問演習をすることが効果的だろう。あとは単語力をどこまで伸ばせるかである。問題全体に難単語が散見されるわけではなく、意外と平易な英語であるが、やはり英検準1級の単語・熟語まで手を付けたい。

【時間の目安と難易度】

	内容・語数	時間	難度
1	発音、アクセント問題 (6問)	3分	B
2	文法語法の間違い探し (10問)	8分	C/D
3	会話における空所補充 (15問)	10分	C
4	読解： 下線部の語彙の推測 (10問)	15分	D
5	長文問題 (10問)	30分	D

設問も選択肢も英語であり、しかも選択肢の英文量がこれまた多いことを考えると80分という時間は多くの一般受験生にとって決して長いものではない。しかし、大きな長文が1つしかなく、焦って読み進めるといった必要はない。もし時間的余裕があるのなら、大問4、大問5はじっくり解く価値があるため、これ以上の時間を使ってもよい。

C 出題形式ごとの分析とアプローチ

大問 1

【2018年 法学部】

Questions (1)–(6) below are concerned with how words sound.

[A] *Each of the following questions (1)–(3) contains 5 noun–verb pairs. In one of the pairs, the noun and the verb can be **stressed differently**. Choose that noun–verb pair and mark the appropriate number (1–5) on your answer sheet.*

(1)

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1. a pedal–to pedal | 2. a photograph–to photograph |
| 3. a project–to project | 4. a practice–to practice |
| 5. a promise–to promise | |

(2)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. an arrest–to arrest | 2. a subject–to subject |
| 3. a balance–to balance | 4. a bargain–to bargain |
| 5. a benefit–to benefit | |

[B] *Each of the following questions (4)–(6) contains 5 pairs of words. In each question, four of the pairs contain words that are pronounced identically, but one pair contains words that are **pronounced differently**. Mark the number of that pair (1–5) on your answer sheet.*

(4)

- | | | |
|--------------------|----------------|----------------|
| 1. ceiling–sealing | 2. bread–breed | 3. peace–piece |
| 4. feat–feet | 5. steal–steel | |

(5)

- | | | |
|--------------|----------------|----------------|
| 1. sale–sail | 2. break–brake | 3. hate–height |
| 4. vain–vein | 5. prey–pray | |

【形式・分析・アプローチ・MAX感想】

2017年から発音の問題が加わり、2018年度はアクセントも加わった。

	2018年	2017年
Part A	品詞によって強勢の位置が変わる語	韻を踏む語のペア
Part B	発音が同じ語のペア	発音が同じ語のペア

【2017年】

[A] *Questions (1)–(3) are concerned with rhyming pairs (same-sounding word endings). In the following examples, pair 1 does rhyme, but pair 2 **does not**: 1. dear–fear, 2. gear–wear. In each of the following groups (1)–(3) one of the five pairs **does not** rhyme. Mark the number of that pair on your answer sheet.*

- (1) 1. beard–heard 2. child–wild 3. fight–sight
 4. rough–tough 5. sleigh–weigh

出されるものはセンターレベル～やや難の語程度で、標準的なものがほとんど。品詞によるアクセントの違いやスペルが異なるが同じ発音をする語を見るものなど、この2年間特徴的な出題が見られる。巻末の資料で部分的に補強したい。

大問 2

【2018年 法学部】

【2】

[A] *In each of the following questions (7)–(11) one of the five sentences is **not correct** in English. Mark the number of that incorrect sentence (1–5) on your answer sheet.*

(7)

1. The referee's decision was impartial.
2. The referee's decision was unfair.
3. The referee's decision was unbalance.
4. The referee's decision was indisputable.
5. The referee's decision was irregular.

(8)

1. When you see a person acting suspiciously, please let us know.
2. When you saw a person acting suspiciously, please let us know.
3. If you see a person acting suspiciously, please let us know.
4. If you saw a person acting suspiciously, please let us know.
5. If you should see a person acting suspiciously, please let us know.

[B] *Read the short sentences (12)–(16) below. In some of these sentences, one of the underlined parts contains a **mistake**. Mark the number of that part (1–4) on your answer sheet. If the sentence is **correct** as it is, mark 0.*

(12) He was made₁ to₂ train₃ too hard by₄ no good reason.

(13) A strong objection was raised₁ by a few₂ countries in Asia such as₃ North Korea and₄ China.

(14) Yokohama is a₁ most pleasant place to work₂ as well as live₃ in₄.

(15) The₁ Article₂ 9 of the₃ Constitution₄ should be amended.

(16) The monitor didn't turn on, nor₁ did₂ the brand new keyboard seemed₃ to be working₄.

【形式】

Section A : 5つの文から英語として間違っただけのものを選ぶ。(5問)

Section B : 下線部の間違い探し。(5問)

【分析・アプローチ・MAX感想】

Section A はほぼ似た文章が並んでいるので、何を問われているのか大体判断することができる。レベルはやや難程度で、なんとなく答えられそうだったけど、「あれ、どうだったけ？」と完全には頭に残っていない知識、記憶と戦うような問題もある。誤文を選ぶ問題という形式がやや難しく感じさせており、4択問題であれば自信を持ってはじいているはずのものも「これも言えるのではないか？」と思っ
てしまいがちだ。確実に正しいもの(つまり答えではないもの)を消し、時にあいまいな知識を引き出し
ながら、その中で「これは違う」と思うものを特定しよう。

- (7)
1. The referee's decision was impartial.
 2. The referee's decision was unfair.
 3. The referee's decision was unbalance.
 4. The referee's decision was indisputable.
 5. The referee's decision was irregular.

文末の5つの単語が問われているのは一目瞭然。意味の問題なのか。日本語で考え
るとどれも言えそうだが、意味以外の部分も気になることはないか。

- (9)
1. This incident was reported by the media.
 2. This crime was solved by the detective.
 3. This research was conducted by the professor.
 4. This accident was happened by chance.
 5. This issue was resolved by diplomatic means.

受け身として不自然な動詞や表現を問う問題。この中で、普段の問題で「受け身に
ならない」と判断している動詞を1つ見つけられればそれが答えだ。

- (11)
1. The police is busy at the crime scene.
 2. The crew is resting for a while.
 3. The faculty is young these days.
 4. The jury is finally out.
 5. The audience is already seated.

集合名詞の動詞の単数形 or 複数形かを問う問題。全ての名詞を判断するのは難しい
が、今回問われているのは頻出のもの。

Section 2 は下線部の間違い探しである。間違いがないものもあり（その場合は 0 と答える）、そのことが問題の難易度を上げている。ただ、(12)、(16) のように間違いがあるものは平易なレベルであり、比較的に見つけやすい。(15) はそれだけを問われると難しい問題であるが、the に 2 つ下線部が引かれているところから気づける人もいるだろう。(13)、(14) は一見間違っているところがなさそうである。「間違っていない分なのか、どこか間違っているのか」、頭の中でぐるぐる思考しながら取り組むのだが、「一見」ではなく本当に「間違っているところがない」のだ。文章が平易なので、精査して間違いがなければ思い切って間違いがない、と答える。ここではできれば 4 問取りたいが、3 問でも OK としよう。2018 年度の問題であれば、(12)、(16) をしっかりと、(13)、(14) のいずれかを「間違いなし」と答えられていれば 3 問に行く。さらに、(15) が取れば 4 問。

なお、この大問 2 の間違い探しについては、2017 年度までは大きく趣旨が変わらないが別の形式で出ていた。以下は 2016 年度の問題だが、「文頭から何語目が間違っているかを答える（3 語目なら 3 にマーク）」というもので、しかも「間違いがない場合は 0」というおまけもついている。ただ、問われているものはセンターレベルも多く入っており、取れる問題を取りこぼさないという原則は変わらない。この大問 II は今後も形式を変えてくる可能性がある。

In a number of the short sentences (1–15) below, there is a mistake in grammar or usage. Where there is a mistake, one word needs to be changed or removed in order to make the sentence correct in English. No noun may be changed to a noun of a different meaning. Counting from the left, mark the number corresponding to the word needing to be changed or removed as your response to each question.

(E.g. suppose the sentence was, “The bird flied into the window.” In that case the incorrect word would be “flied” which is the third word in the sentence and so you should mark 3 on your answer sheet.)

If you think the sentence is correct as it is, mark 0 on your answer sheet.

1. On my schooldays I often used to go fishing.
2. I wonder why you never think as I do.
3. What kind of car do you ride?
4. She has put on her weight since last year.
5. I have decided to challenge a marathon next year.
6. A crowd was seeing into the department store window.
7. It is important to learn other cultures.
8. The heavy traffic makes it impossible to go somewhere.
9. No one likes to be said a liar.
10. Our teacher always gives us a lot of homeworks.

(2016 年度は計 15 問、2017 年度は Section B として 5 問出された)

大問 3

【2018年 法学部】

【3】 *In the dialogue that follows, phrases have been removed and replaced by spaces numbered (17)–(31). From the lists [A] and [B] below, choose the most appropriate phrases to fill in the spaces. In both lists, **all choices must be used**; and the choices should be made to produce **the most natural conversation overall**.*

Jo : Long time no see! How are things with you these days?

Kate : Oh, fine. I'm in the same job, and I'm still really enjoying it. How about you?

Jo : Not so good, but things are looking up. I've finally made the decision, after ((17)) for some time now, to move companies.

Kate : I had heard something to that effect. Why? What's the matter?

Jo : Well, I don't think I'd be ((18)) if I told you I have been unhappy at my current work for quite a while now. I mean, I have tried to ((19)) a brave face, but I suppose some people must have guessed, right?

Kate : Sure, and actually I even heard a rumor that you had had a quarrel with your boss. Sorry to press you on it, but what exactly happened?

Jo : Oh, you know, I just couldn't ((20)) her criticizing me in front of the other guys in the office.

(中略)

[A] *To fill in blank spaces (17)–(25), choose from the list below:*

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. bring out | 2. giving off |
| 3. bring about | 4. putting it off |
| 5. put on | 6. giving in |
| 7. put me down | 8. giving anything away |
| 9. put up with | |

[B] *To fill in blank spaces (26)–(31), choose from the list below:*

1. so don't forget to mention that in your application
2. and don't forget the deadline is February 16
3. but if anything comes to mind I'll let you know
4. so it's a dynamic and fun department to work in
5. and perhaps even a good one
6. but competition for the post will probably be quite fierce

【形式】

会話文の空所を埋める問題。

Section A : 9 の空所に表現を入れる問題。熟語に焦点を置く。

Section B : 6 つの空所に 6 つの語句を入れる。文脈判断に焦点を置く。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

以下の通り、年々問題数が増えており、その分全体に占める割合も高くなってきた。

- ・ 2016 年 [B] の形式のみ 9 問
- ・ 2017 年 [A] が 6 問、[B] が 6 問の計 12 問
- ・ 2018 年 [A] が 9 問、[B] が 6 問の計 15 問

アプローチとしては原形か～ing 形かで選択肢が分かれているので、品詞や文法的な要素を判断しながら入れていく。Section A の熟語は難易度の高いものも含まれており、全問正解は厳しいかもしれない。問題の性質上 1 問間違いないということはないので（1 つ間違っているということはその選択肢を入れるはずだった空所も間違っているため）、9 問中 6 問を目標ラインとする。Section B は文脈の判断で全問正解が狙えるところだ。全問正解を目標に悪くても 2 問間違いまでに収めたい。2 問合計で 10 分を目安にこの正答率を維持したい。

大問 4

【2018年 法学部】

【4】 *Read the following passage and answer the questions that follow.*

Numerous reports in the Japanese press lately have **bewailed**⁽³²⁾ the shocking plight of many of Japan's almost 1.5 million single parents. Some of these reports note how **incongruous**⁽³³⁾ it is that the world's third largest economy ranks bottom of the 34 OECD nations in terms of the poverty rate for single-parent households. Indeed, 54 percent of these households earn incomes that place them below the poverty line, and this represents the highest rate in the developed world. Perhaps unsurprisingly, the plight for single mothers is even more **arduous**⁽³⁴⁾ than it is for single fathers. The employment rate for single mothers in Japan is 81 percent, also the highest in the OECD. However, the average annual gross income for all single mothers is only about ¥1.8 million, despite the fact that it is not uncommon for a single mother to work at least two jobs.

To **exacerbate**⁽³⁵⁾ their money problems, single mothers frequently receive no financial child support from fathers following divorce. According to data from the welfare ministry only about 20 percent of fathers provide financial support after a divorce; in contrast, according to U.S. Census Bureau data approximately 74 percent of **custodial**⁽³⁶⁾ parents in the U.S. receive full or partial child support from their former husbands or wives. (中略)

If you looked up the basic forms of the underlined words (32)–(41) in the above passage in a dictionary, you would find the following definitions (0–9). For each underlined word, decide which definition best matches it and mark that number on your answer sheet.

0. to make (something bad) less severe, serious, or painful
1. not in harmony; unusual or different because of not agreeing with what is usual or expected
2. to be involved in a lawsuit; to resort to legal action to settle a matter
3. hard to accomplish or achieve; needing a lot of effort and energy; very difficult
4. to make amends to (someone) for loss or harm suffered; to reward (someone) for their efforts or troubles
5. providing protective care or services for basic needs; having sole or primary guardianship over someone
6. to express great sadness or disappointment about (something)
7. having little substance or strength; not thick, not dense
8. to make (something) more bitter, violent, or severe
9. agreed to by the people involved; done with the agreement of both parties

【形式】

400 語程度の文章を読み、下線が施されている 10 の語の意味を 10 の選択肢から選ぶ。選択肢は英英辞書の定義が書かれている。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

文章は 300～400 語後半までが平均的。2018 年度は 370 語、2017 年度は 230 語、2016 年度は 480 語と年度によって幅があるが、長文読解ではないので大差ない。むしろ、意味を推測する問題なので、短すぎると周辺情報や文脈が限られているため、ある程度長めのほうが良い場合もある。

出てくる単語はかなり難しく、英検 1 級レベルもしくはそれ以上と言える。過去には何個かよりなじみのある単語が出題されている年もあるが、全体としては知識として知っていることは全く前提にしていない。いかに前後のキーワードや文脈から推測するかである。このレベルの単語まで単語学習として手を付けるのは不可能だが、英検準 1 級レベルの単語が出題された時には 1 つ、2 つでも抑えられるとアドバンテージになる（ただ文脈での意味なので、単語帳通りの解答ができるわけではない）。

正直、この問題の難易度は高い。もし「下線部の意味に近い語を選択肢から選びなさい」という問題だとまだやりやすいのだが、英英辞書の定義というとても抽象的な選択肢とつなげ併せていかないといけない。本文を読んでいるときにはなんとなく推測できている語も、選択肢とつなげたとたんに語彙のイメージがうまくつながらず、私も混乱しながら解いているものもある。ここをつなげるブリッジを作るためにも以下にある通り、分かる語に置き換えるという作業が有効である。

10 個も推測するには部分的な理解でピースを埋めていくような方法は避ける。まずは焦らず全て **First Reading** で目を通そう。次に、下線部をより詳細に精査するわけだが、上述の通り、知らない単語と辞書の定義をつなげるのは難しい。ただし、動詞と形容詞といったように 2 種類の品詞に分かれているので、まず形から解答を絞ることはしたい。

アプローチを提示するが、これらを頭の中ではなく、テスト用紙に示し、混乱がないようにすること。

<本文箇所>

- ① その語の品詞を特定する。動詞なら V、形容詞なら A (K でもよい) など自分が分かるマークにしておく。
- ② 一度自分の知っている語に置き換える。日本語でよい (英語だと置き換えた語のイメージに引きずられてしまうため、むしろ日本語が良いかも)。
 - ・その語がポジティブな意味なのか、ネガティブな意味なのか、大枠のイメージもあればつかんでおく。

<選択肢>

- ③ 品詞を特定して、本文同様、V や A を記し、①と合わせる。
 - ・英英辞書の定義で to do と不定詞で書かれているのが動詞の定義
- ④ ポジティブな語、ネガティブな語があれば下線を引き、②のイメージと合わせる。

このアプローチを使って 2018 年度の問題を解いてみよう。

下線部の推測

単語	品詞	身近な語 (英日どちらでも)
bewailed	V	report、報道する
incongruous	A	surprising、驚くべき、矛盾している
arduous	A	worse、severe、悪い、ひどい
exacerbate	V	worsen、悪化させる
custodial	A	divorced、離婚した、片親の
litigate	V	裁判をする、仲裁を申し出る
consensual	A	agreed、協議された、お互いに合意された
recompensed	V	supported、(養育費などで) 支援された、補償された
mitigate	V	lessen、和らげる、低減する
tenuous	A	difficult、unrealistic、難しい、非現実的な

あくまでも文脈の中での推測なのでとりわけ辞書的な意味と異なるかもしれない。実際に custodial は「保護をしている、後見人の」、tenuous は「ほんのわずかの、取るにたらない」という意味であり、上記の推測が少しずれている。しかし、全体としては大方推測できたわけで、最後は解答するときに推測を修正したり、文脈で再確認したりする。

選択肢	品詞
0. to make (something bad) <u>less severe, serious, or painful</u>	V
1. not in harmony; <u>unusual or different</u> because of not agreeing with what is usual or expected	A
2. to <u>be involved in a lawsuit</u> ; to resort to <u>legal action</u> to settle a matter	V
3. <u>hard to accomplish or achieve</u> ; needing a lot of effort and energy; very difficult	A
4. to <u>make amends to (someone) for loss or harm suffered</u> ; to reward (someone) for their efforts or troubles	V
5. providing <u>protective care</u> or services for basic needs; having sole or primary <u>guardianship</u> over someone	A
6. to <u>express great sadness or disappointment</u> about (something)	V
7. having little substance or strength; <u>not thick, not dense</u>	A
8. to <u>make (something) more bitter, violent, or severe</u>	V
9. <u>agreed</u> to by the people involved; done with the <u>agreement of both parties</u>	A

このように選択肢も品詞でまず区別し、さらに下線部が引いてあるような語に注目して、置き換えた語、文脈とすり合わせていく。注意すべきこととして、選択肢は原形の定義なので、recompensed のように本文では受け身で使われている語も能動態の意味で提示されている。

大問 5

【2018年 法学部】

【5】 *Read the text below and answer the questions that follow.*

[A] The press, politicians, and other opinion leaders encourage fears about particular groups of people both by what they emphasize and what they neglect. Consider Americans' fears of black men. These are perpetuated by the excessive attention paid to dangers that a small percentage of African-Americans create for other people, and by a relative *lack* of attention to dangers that a majority of black men face themselves.

[B] The dangers to black men fade from news coverage whenever people paint color-blind pictures of hazards that particularly threaten African-American men: discussions of disease trends that fail to mention that black men are four times more likely to be infected with the AIDS virus and twice as likely to suffer from prostate cancer and heart disease than are white men; reports about rises in teen suicide rates that neglect to note evidence that the rate for white males crept up only 22% between 1980 and 1995 while the rate for black males jumped 146%; or explorations of how difficult it is to maintain a middle-class lifestyle that ignore how this problem is more acute for black men (for example, college-educated black men earn only as much as white men with high-school diplomas).

[C] The most glaring omissions occur in the coverage of crime. Many more black men are casualties of crime than are criminals themselves, but their victimization does not attract the media spotlight the way their crimes do. Thanks to massive coverage of violent crime on local TV news programs, "night after night, black men rob and rape in the living room," journalism teacher Caryl Rivers has remarked. Dozens of studies document that when it comes to victims of crime, however, the media pay disproportionately more attention to whites and women.

[D] On occasion, the degree of attention becomes so distorted that reporters start seeing patterns where none exist — the massively publicized "wave" of tourist murders in Florida in the early 1990s being a memorable example. By chance alone every decade or two there should be an unusually high number of tourists murdered in Florida, statistician Arnold Bennett demonstrated in a journal article. The increase that so caught the reporters' fancy — ten tourists killed in a year — was labeled a crime wave because the media chose to label it as such.

(42) Which of the following statements **can** be made with most certainty on the basis of paragraph [A]?

1. The media pay too much attention to dangers created by a small percent of black people.
2. The media pay too much attention to dangers created by a large percent of black people.
3. The media pay too much attention to dangers faced by a small percent of black people.
4. The media pay too little attention to dangers created by a large percent of black people.
5. The media pay too little attention to dangers faced by a small percent of black people.

(43) What is the **main point** made by the author in paragraph [B]?

1. Black men suffer disproportionately from certain health problems.
2. Disproportionately more black teenagers commit suicide than their white counterparts.
3. Many white men with less education earn more than black men with more education.
4. White men in general are wealthier, healthier, and better educated than black men.
5. The media often fail to publicize the harms faced by black men.

(49)–(50) A portion of paragraph [H] marked by the bracketed space (X) has been removed from the text and the words that make it up are rearranged below in alphabetical order. Decide what was the original order and mark the numbers of the **third** and **seventh** words as the answers to questions (49) and (50), respectively, on your answer sheet.

- | | | | |
|----------|---------------|----------|---------------|
| 1. a | 2. constitute | 3. of | 4. proportion |
| 5. rapes | 6. tiny | 7. total | 8. which |

【形式】

長文を読み、10 の設問に答える。

【分析】

2016 年度までは本文全体の後に 10 の設問が並んでいたが、2017 年度から本文が 2 つのパートに分かれ、前半の本文 (P8) の後に 5 つの設問 (P9)、後半の本文 (P10) の後に 5 つの設問 (P11) というように、見た目は 2 つに分かれた (あくまでもページの割り振りだけで、前半も後半も全てつながった文章である)。これによって見開きで問題と解答が見えるようになり、技術的には解きやすくなった。

本文の長さは 800~900 語だが、設問と選択肢がすべて英語であり、それを含めるとかなりの英語ボリュームを感じる。以下は、過去 4 年間の本文の語数と選択肢の語数 (設問自体は除く) を記したものである。選択肢だけで 730 語という語数で圧倒されそうになるが、そうはいつでも選択肢であり、やはり本文の語数が長いのは意味が違うため、それほど気にしないでよい。時間配分で切迫していなければ、解答作業が多少長期戦になることを覚悟していればよい。

過去 4 年間の長文の語数

	2018 年	2017 年	2016 年	2015 年
本文	880 語	810 語	870 語	920 語
選択肢	730 語	550 語	600 語	460 語

大きな変更点としては 2018 年度から 4 択が 5 択に変わったことである。もともと詳細な理解を求めるレベルの高い設問もあったが、さらに絞り込みが難しくなったということで難易度が上がった。

【アプローチ】

内容理解の出題の形式は主に以下の 3 つに分類できる。

- ① 本文に沿って、確実に言えること／言えないことを選ぶ問題。
*Which of the following statements **can** be made with most certainty on the basis of paragraph [A]?*
*Which of the following statements **cannot** be made with certainty on the basis of paragraph [C]?*
- ② パラグラフのメインアイデアを問う問題
*What is the **main point** made by the author in paragraph [B]?*
- ③ 文章のタイトルを問う問題
*What would be the most appropriate **title** for this entire reading text?*

①は本文の詳細部分も判断して読まなくてはならない。②、③はパラグラフもしくは文章全体の概要をもって理解する問題である。

First Reading では、メインアイデアとそれ以外を区別してロジカルに読みながら概要をつかもう。各パラグラフのメインアイデア（通常は第1文）やキーワードに線を引きながら読む。その下線に一致していなければ、パラグラフで述べられていてもメインアイデアではないということだ。Second Reading では見開きで問題を確認しながら、どのパラグラフでどのタイプの理解を求められているのかを確認しながら読みなおしていく。先ほどのメインアイデア、キーワードを把握しながら答えていく。

ここで1つ問題を見てみよう。

<本文箇所>

[D] On occasion, the degree of attention becomes so distorted that reporters start seeing patterns where none exist — the massively publicized “wave” of tourist murders in Florida in the early 1990s being a memorable example. By chance alone every decade or two there should be an unusually high number of tourists murdered in Florida, statistician Arnold Bennett demonstrated in a journal article. The increase that so caught the reporters’ fancy — ten tourists killed in a year — was labeled a crime wave because the media chose to label it as such.

<本文箇所>

(45) *What is the main point made by the author in paragraph [D]?*

1. The media sometimes incorrectly describe random occurrences as forming a trend.
2. A large number of tourists were once killed in Florida.
3. The killing of as many as ten tourists in one year in Florida is still remembered.
4. A sudden increase in the number of murders in Florida is statistically natural.
5. The media greatly publicize crime waves that are predicted by statisticians.

<アプローチ>

本文のメインアイデアは下線部を施したところに現れており、そこからはそれについての「議論」であり、フロリダの話はその議論にまつわる「例」である。それらのことをロジカルに判断できていれば、メインポイントとして2. 3. 4.のような「例」を選ぶことはないはずだ。

一方、①のタイプの問題は、本文の内容と突き合わせて場合によっては細かい情報を確認していく。あくまでも「本文に基づいて確信をもって判断できること」を問われているので、本文の前提や当然として出てくる結論まで判断しなくてはいけないが、「書かれていないこと」、「おそらく予測できること」ではないので気を付けよう。

長文自体は決して難しくなく、設問も全体的には奇問というものはなく、ストレートな内容理解を求めているものである。配点は200点中であるが、おそらく1問5～6点の計算となり、大きい部分である。焦らずに30分、余裕があればそれ以上使ってがっつり取り組もう。

おまけ

アクセント・発音資料

(Max English Notebook より抜粋)

その1 間違いやすい派生語

★advise [ədvaiz]	—	advice [ədvais]
★anxious [æŋkʃəs]	—	anxiety [æŋzaiəti]
★bath [ba:θ]	—	bathe [beið]
★breath [breθ]	—	breathe [bri:ð]
☆clean [kli:n]	—	cleanse [klenz]
☆cloth [klo:θ]	—	clothe [kloʊð]
☆confess [kənfes]	—	confession [kənfeʃən]
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">参照</div> impress / impression など同類		
conquer [kənker]	—	conquest [kənkwɛst]
☆court [ko:t]	—	courteous [kə:tʃəs] (礼儀正しい)
★create [kri:et]	—	creature [kri:tʃə(r)]
☆execute [eksəkj:t]	—	executive [igzekjətiv] (行政官、重役)
★exhibition [eksəbiʃən]	—	exhibit [igzibit]
★expand [ikspænd]	—	expansion [ikspænʃən]
★famous [feiməs]	—	infamous [infəməs] (悪名高い)
★finite [fainait]	—	infinite [ɪnfənət]
hero [hi:rou]	—	heroism [herouizm]
★hide [haid]	—	hidden [hidn]
★high [hai]	—	height [hait]
☆human [hju:mən]	—	humane [hju:məne] (思いやりのある)
★know [nou]	—	knowledge [nɒlɪdʒ]
☆labor [leɪbər]	—	laborious [ləbɔ:riəs] (勤勉な)
★long [lɔ:ŋ]	—	length [leŋkθ]
★lose [lu:z]	—	loss [lɔ:s]
mouth [mauθ]	—	mouths [mauðz] — mouth's [mauθz]
right [rait]	—	righteous [raitʃəs] (正しい、公正な、最もな)
★say [sei]	—	says [sez]
★strong [strɔŋ]	—	strength [stɛŋkθ]
☆vice [vais] (悪徳)	—	vicious [viʃəs] (悪意のある、不道德な)
zoo [zu:]	—	zoology [zouɒlədʒi]

その2 品詞で異なる発音 文脈判断

☆close [s] (形容詞：近い) — [z] (動詞：閉める)

- ☆excuse 【s】(名詞：言い訳) — 【z】(動詞：許す)
 house 【s】(名詞：家) — 【z】(動詞：住む、収容する)
 ☆aged 【id】(形：老いた) — 【d】(～才の)
 ★use 【s】(名：使用、形：かつては～した) — 【z】(動：使う)

その3 スペルが同じで発音と意味が異なるもの 文脈判断

- ★bow 【bou】(弓) — 【bau】(お辞儀する)
 ★lead 【li:d】(導く) — 【led】(鉛)
 ☆learned 【lə:rnd】(learn の過去形) — 【lə:rnɛd】(学識のある)
 ★live 【liv】(動詞：生きる) — 【laiv】(形容詞：生放送の、元気な)
 ★minute 【mɪnət】(分) — 【main(j)u:t】(ささいな、微小な)
 ☆sow 【sou】(巻く) — 【sau】(メス豚)
 subject 【sʌbdʒɪkt】(主題) — 【səbdʒɛkt】(服従させる)
 ★tear 【teər】(引き裂く) — 【tiər】(涙)
 ★used 【ju:zd】(use の過去形) — 【ju:st】(～に慣れている)
 ☆wind 【wind】(風) — 【waɪnd】(曲がりくねる、巻く)
 ☆wound 【wu:nd】(傷、傷つける) — 【waʊnd】(wind の過去形)

その4 同音異義語

- ★ 【eər】 air — heir (相続人)
 【əlaʊd】 aloud — allowed
 【ɔ:lɪtər】 alter (変える) — altar (祭壇)
 ☆ 【əsent】 assent — ascent
 ☆ 【beər】 bear — bare (裸の)
 【blu:】 blue — blew (blow の過去)
 ☆ 【beri】 bury (埋める) — berry (イチゴ類)
 ☆ 【bou】 bough (大枝) — bow (お辞儀する)
 ☆ 【breɪk】 break — brake (ブレーキをかける)
 【bai】 by — buy
 【sel】 sell — cell
 【si:d】 seed — cede (譲歩する)
 【sent】 cent — sent — scent (香り)
 ☆ 【kɔ:r】 core — corps
 【sait】 cite — site — sight
 ☆ 【kju:】 cue (合図) — queue (列)
 【dai】 die — dye
 【feər】 fair — fare (運賃)

【fli:]	flee (逃げる)	—	flea (ノミ)	
☆ 【flauəɹ]	flower	—	flour (小麦粉)	
【fɔ:θ]	forth (前に)	—	fourth	
【hiəɹ]	here	—	hear	
【haiəɹ]	higher	—	hire	
【hou]	hole	—	whole	
【hə:rd]	herd (群れ)	—	heard	
【aidl]	idle (怠けた)	—	idol (偶像)	
☆ 【ail]	isle	—	aisle (通路)	
☆ 【ki:]	key	—	quay (波止場)	
【ni:d]	need	—	knead (練る)	
【nait]	night	—	knight (騎士)	
【lein]	lane (レーン)	—	lain (lie の過去分詞)	
【led]	led (lead の過去)	—	lead (鉛)	
☆ 【lesn]	lesson	—	lessen (減らす)	
【mein]	main	—	mane (ライオンなどのたてがみ)	
【meil]	mail	—	male	
【mi:t]	meet	—	meat	
【mɔ:rnɪŋ]	morning	—	mourning (追悼)	
【nʌn]	none	—	nun (尼)	
☆ 【wʌn]	won	—	one	
【pi:s]	peace	—	piece	
【pɔ:r]	pour (注ぐ)	—	pore (熟考する、気孔)	
【rein]	rain	—	reign (統治)	— rein (手綱)
☆ 【rait]	right	—	rite (儀式)	— write
【ru:t]	root	—	route	
【seil]	sail	—	sale	
☆ 【sou]	sew (縫う)	—	sow (まく)	— so
【si:n]	seen	—	scene	
【soul]	soul	—	sole (唯一の、はだしの)	
【sʌn]	son	—	sun	
☆ 【sɔ:r]	saw (のこぎり)	—	saw (see の過去)	
	soar (上昇する)	—	sore (傷ついた)	
【steɪʃənəri]	stationary (動かない)	—	stationery (文房具)	
【streɪt]	straight	—	strait (海峡)	
【sʌm]	some	—	sum	
【teil]	tail	—	tale	
☆ 【θru:]	threw	—	through	
【taɪd]	tied	—	tide	
【veɪn]	vane (風見)	—	vain (無駄な)	— vein (静脈)
☆ 【weɪt]	wait	—	weight	

☆【wei】	way	—	weigh
【weist】	waist (腰)	—	waste
【weər】	wear	—	ware (商品)
【wud】	wood	—	would

ルール4 一般的な原則として、名詞は前に、動詞は後ろにアクセントが置かれる。 文脈判断

名詞		動詞	
<u>a</u> ccent	アクセント、なまり	ac <u>ce</u> nt	アクセントをつけて発音する
co <u>n</u> cert	演奏会、コンサート	co <u>n</u> cert	協力する、協定する
☆co <u>n</u> duct	指導、管理、運営	co <u>n</u> duct	導く、指揮する
co <u>n</u> flikt	論争、葛藤	co <u>n</u> fl <u>i</u> ct	対立する
co <u>n</u> test	論争、コンテスト	co <u>n</u> te <u>s</u> t	議論する
co <u>n</u> tract	契約	co <u>n</u> tra <u>c</u> t	契約する、短縮する
☆co <u>n</u> trast	対照、対比	co <u>n</u> tra <u>s</u> t	対照させる
★de <u>s</u> ert	砂漠	de <u>s</u> ert	見捨てる
de <u>cr</u> ease	減少	de <u>cr</u> ease	減る
☆di <u>g</u> est	要約	di <u>g</u> est	消化する
☆ <u>e</u> xport	輸出 (品)	<u>e</u> xport	輸出する
<u>e</u> xtract	抜粋	<u>e</u> xtra <u>c</u> t	抜粋する、引き出す
☆ <u>i</u> mport	輸入 (品)	<u>i</u> mport	輸入する
☆ <u>i</u> ncrease	増加	<u>i</u> ncrea <u>s</u> e	増える
☆ <u>i</u> nsult	侮辱	<u>i</u> nsult	侮辱する
★ <u>o</u> bject	反対、物、対象	<u>o</u> bject	反対する、攻撃する
★ <u>p</u> resent	プレゼント	<u>p</u> resent	与える、発表する
<u>p</u> roduce	産物	<u>p</u> ro <u>d</u> uce	生産する、産む
★ <u>p</u> rogress	進歩	<u>p</u> rogress	進歩する
★ <u>p</u> rotest	抗議	<u>p</u> rotest	抗議する
★ <u>r</u> ecord	記録	<u>r</u> ecord	記録する、録音する
<u>s</u> ubject	科目、題目、臣民	<u>s</u> ubject	支配する
<u>s</u> urvey	調査	<u>s</u> urvey	ざっと見渡す、調査する

注意 desert (名：報酬) の場合は後ろにアクセント
present (形：出席している、名：現在の) は前にアクセント

ルール 5 名詞も動詞も同じアクセントの位置であるもの

	名詞	動詞
<u>ba</u> lance	バランス、収支	バランスを保たせる
co <u>mf</u> ort	快適さ	和らげる
co <u>mm</u> ent	コメント、論評	批評する、論評する
con <u>se</u> nt	同意する	同意
con <u>tr</u> ol	コントロール	コントロールする
de <u>ba</u> te	討論、ディベート	討論する
de <u>fe</u> at	敗北	負かす
de <u>li</u> ght	喜び	喜ばせる
dis <u>li</u> ke	嫌気	嫌う
dis <u>pu</u> te	議論、論争	議論する
es <u>ca</u> pe	逃亡、回避	逃げる
in <u>fl</u> uence	影響	影響する
la <u>me</u> nt	嘆き	嘆く
li <u>mi</u> t	制限	制限する
mo <u>de</u> l	原型、モデル	形作る
ne <u>gl</u> ect	無視、軽視	無視する
pu <u>rch</u> ase	購入	購入する
re <u>ma</u> rk	見解、注意	述べる
re <u>po</u> rt	報告	報告する
re <u>sc</u> ue	救出	救出する
re <u>sp</u> ect	尊敬、点	尊敬する

ルール 6 形容詞は前に、動詞は後ろにアクセントが置かれるもの 文脈判断

形容詞		動詞	
<u>a</u> bsent	不在の	<u>a</u> bsent	欠席する
<u>f</u> requent	頻繁に起こる	<u>f</u> requent	よく一緒にいる
<u>p</u> erfect	完璧な	<u>p</u> erfect	完成する